

# 特集Ⅲ

## 未来医学研究会のいま

### 修了生、OB・OGによる近況報告

### 熊本便り

熊本大学 国際先端医学研究機構

梅本 晃正

Terumasa Umemoto



私は2015年の3月まで、学校法人東京女子医科大学先端生命医科学研究所（以下、女子医大先端研）に所属し、大和雅之先生の下で、主に再生医療の細胞源として注目を集めている組織幹細胞の研究をしておりましたが、縁あって、2015年の4月より国立大学法人熊本大学国際先端医学研究機構（以下熊本大学IRCMS）に異動致しました。実は、私は12年という長い期間、女子医大先端研にお世話になっており、本格的な異動（環境が変わること）は、自分が大学院を修了して、女子医大先端研に勤め始めるとき以来でしたので、実際は様々な不安と期待が入り混じる複雑な気持ちでした。しかしながら、いざ新しい環境に触れると、公私にわたって、刺激的なこと、魅力的なことが沢山あり、今ではすっかり、「I Love 熊本」になってしまいました。

まず、私生活面ですが、熊本は食べ物がとても美味しく、野菜がとても新鮮で瑞々しく、引っ越してから、食卓上の生野菜率（サラダ等）が相当上昇しました。従って、とてもヘルシーな食生活を送っていたので、私の体重は一時期5キロほど落ちました。しかし、熊本の野菜ばかりで

はありません。牛は”赤牛”、豚は”りんどうポーク”、鶏は”天草大王”といった素晴らしいお肉のオールスターが揃っていることに加え、魚もとても新鮮で、特に天草の鯛は衝撃的に美味しいです。また、スーパーで”酢でしめていない”脂がのった鯖の刺身が買えることに驚きました。鯖、イカ、サンマ等に寄生し食中毒を引き起こすことで有名な寄生虫のアニサキスは、大きく3種類存在するようで、九州の鯖には内臓にのみ寄生するタイプのアニサキスしかないらしいです（通常の鯖は、筋肉に寄生するアニサキスもいるらしいです）。従って、調理の過程でアニサキスが完全に除かれるため、刺身で食することが可能だと言われております（諸説あり）。また、熊本で売っている牛乳はほとんど阿蘇産で、北海道産がほとんどありません。しかし、輸送距離が短く、新鮮なため、牛乳も東京にいたときよりも非常に美味しく感じます。事実、牛乳嫌いの息子も、熊本では毎日牛乳を飲むようになりました。しかし、何よりも我々家族がこの一年、最も魅了されたのは阿蘇の山々です。私たちは阿蘇の雄大で美しい山々にすっかり魅了され、晴れた日曜日は、大抵、

家族で阿蘇に出かけております。私の嫁は元々「海派」でしたが、阿蘇を一度訪れてからはすっかり「山派」に鞍替えしてしまいました。また、虫嫌いだった息子は、阿蘇でバッタとの触れ合いが増えた結果、今ではすっかり虫取り(専門はバッタ、カマキリ)にはまっており、東京では珍しいトノサマバッタを捕まえて喜んでいました。私自身も、阿蘇の山道を度々ドライブした結果、車の運転がかなり上達したかと思います。私はこれまでに関東から出て住んだことがなかったので、今回の異動で、新しい土地での新しい発見が沢山あり、とても素晴らしいことを体験できているとしみじみ感じております。

また、仕事の面においても、非常に魅力的な職場に勤めることが出来たことに感謝しております。異動先の熊本大学でも、これまでと同じように組織幹細胞(特に、造血幹細胞=血液の細胞の元となる細胞)の研究に従事しております。また、私

が所属する熊本大学IRCMSは「国際化」と「オープンラボ(簡単に説明すると、大きな室や実験室を複数の研究室で共有して使用するシステム)」が特徴的な研究施設です。基本的にセミナーは全て英語で行われ、また海外からの留学生も積極的に受け入れています。また、「オープンラボ」ということもあって、他の研究室の海外留学生とも話す機会が多いおかげで、自然と英語を使わざるを得ない環境に追いつまれており、英語が苦手な私にとっては日々英語の訓練が出来る素晴らしい環境であると感じております。また、我々の施設自体も2014年の10月に開所されたばかりの新しい施設なので、当然、そこに入居する研究者も新人(?)が大多数を占めます。このような状況に、オープンラボのシステムが相まって、「皆で互いに力を合わせて頑張っていこう妙な連帯感」と、「互いに切磋琢磨しようという競争心」が同居するとてもアットホームで活力に溢れた雰囲気の中、



研究させて頂いております。また、熊本大学は古くから研究活動が盛んなようで、実験動物施設や共同機器施設等の研究のサポートが非常に充実しており、こういったハード面でも非常に恵まれた環境で研究生活を送れています。

このように公私とも素晴らしい環境に恵まれており、私は現在、非常に充実した日々を送らせて頂いております。しかし、今このように充実した日々を送らせて頂いているのも、女子医大先端研

にて、研究者として過ごした日々の経験が大きな礎となっていることは間違いありません。従いまして、これまでに女子医大先端研でお世話になった方々に改めて感謝させて頂くことは勿論、今後も女子医大先端研で得た貴重な経験を生かして、研究者としてさらに飛躍してするため、日々精進していきたいと思っております。

#### 略 歴

- 平成15年3月 東邦大学大学院 理学部研究科 生物分子科学専攻 修了
- 平成15年4月 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 研究技師
- 平成19年4月 東邦大学大学院 理学部研究科において論文博士制度にて博士号(理学)を取得
- 平成19年5月 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 博士研究員
- 平成22年4月 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 特任助教
- 平成25年4月 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 助教
- 平成27年4月 熊本大学 国際先端医学研究機構 特任助教(現職)